

## 地域環境教育と地域生涯学習の接点

Possibility of the contact between close at home  
environment study and social education

富野孝生\*

Takao TOMINO

地域創生の新しい行方が多岐にわたって模索、構築されている時代である。これまでも同様な企画に沿って地域の社会教育や生涯学習が動き出して来た趣はあるが、真に地域に根ざした地域人の視点から生まれ育って来たものは少なかった。豊かな地域づくりや町づくり、安心と潤いが感じられる豊かな生活に向けた生涯学習環境の構築と拡充は、差し当たってわれわれが現代に強く求めている重要課題でもある。地域の生涯学習センターを起点にいろいろな学習講座が開設されているが、生活のゆとりと向上に関連した企画が主流を成しており、基本的な生活基盤である地域環境の見直しや生き物の生存に関わる将来的な見直しにある学習活動は意外に少数を数えるに過ぎない。環境教育を軸にして、われわれの足下から安心できる学習目標をこの際しっかりした地位に据えることを切望するものである。本報告は、いくつかの生涯学習講座にかかわった経験から、環境問題関連学習をすすめるために環境教育の実績をあげ、同時に進め方のテクニックに触れたものである。

キーワード：環境教育、生涯学習、エコキッズ、生涯学習理想像

### 1. 序

「地方」や「地域」がクローズアップされ、これまでの地方・地域のあり方から脱皮する時代が緒に付いたことが提言され続けている。これは地域事情を色濃く秘めた生き方を、地域住民自らが新しく造り出すことをうながすものである。一方、昨今では、環境、福祉、国際化のキーワードを軸にして、これからの地域社会づくりの指針を焼込んだ基本青写真も周知の事実として汲み上げられている。この状況を溶融しているるつぼの中で、地域に足を下ろしている我々は、豊かで余裕を感じ得る地域と、健かさや安心を感じとることができる「地域社会」を現実問題の一解答と位置づけて、造りあげなければならない<sup>(1)(2)</sup>。大きな課題を抱かえることになるが、この目的に向けた展望が構築できる努力を続けなければならない<sup>(3)</sup>。

本報告は、環境を主題に立てた「地域理解」を第一義に堅持して、着手しなければならない、現状生活空間の見直し方法と現状下にある地域の事情理解に触れて言及、紹介したものである。

### 2. 地域生涯学習センターの活動計画

地域の生涯学習プログラムは、センターが中心になってセンター業務の経験を生かしつつ、年度当初に立案されるのが一般的傾向である。しかし同時にこの企画立案は、その「地域」が位置し被っている、人文・歴史・地理・自然・行政および行政区画・時代要請・住民の自主要請などを十分加味して打ち出されるであろうことは言を待たない。すなわち先の諸条件のうち、「人文」的要素とは、人口密度や動態、年齢構成、教育機関の現状 etc. についてよく考慮され、できればこれらへの配慮が行き届いていた状況で見通しが付けられることが望ましい。さらに、地域が置かれた過去からして、今日までに至っ

\* 三重大学教育学部（理科教育）

た歴史的特長の要素も立案には欠かすことができないであろう。同様に人々が足を置き、寄って立っている自然と地理的特長も生涯学習内容への方向性を左右してくることも見逃すことができない。また一方、地域に住む人達が自ら時代背景をすばやく捉えて、生涯学習テーマに希望して来るような「町づくり」に適したアップデートな内容も予備テーマにあげて置かねばならないであろう。

このような地域生涯学習テーマを推定し決定する道筋から、実際に活動に移された学習テーマを解析して全体像を検討することも重要である。このことからより生涯学習の内容を生き生きとさせて効果をあげるために、地域生涯学習実施テーマの全体像の分野について解析を行った。対象のセンターは、名古屋市の17センターのうち、昭和・瑞穂・中村・北各センターの資料を用いた。調査解析の期間は、平成12～14年度の三年間を取り上げた<sup>(3)～(6)</sup>。

#### 2-1) 名古屋【昭和生涯学習センター】企画立案テーマの概観

開講テーマの様子は、センターが計画した主催講座・公開講座に分類された。それぞれは、一テーマについて連続5～6回の連続した講義回数を当て、講義に深まりを持たせたと思われる主要講座と、単発一回講義あるいは講演会様のニュアンスをもった公開講座である。

テーマ概要は、主要講座の項目をまとめてみると「生活文化一般」「健康」「子育て」「食生活」「地域歴史」「自然環境」「まちづくり」「高齢者問題」「ボランティア養成」「障害者交流」「パソコン指導」が計画されていた。公開講座は地域に関わりを持つ、歴史もの解説、社会福祉と介護問題、コンサート、ウォーキング、人権、男女参画社会などがあげられた。これらは年間を三期に区切って配分されているが、每期ごとに開講されている分野（料理・パソコン・子育て・健康スポーツ）もあった<sup>(3)</sup>。

#### 2-2) 名古屋【瑞穂生涯学習センター】企画立案テーマの概観

名古屋市瑞穂区は、昭和区と並んで市街地の中心部を占めており、区域内に山崎川と陸上競技施設が位置して比較的自然環境が多い特長を持っている。当センターの開講講義は、分野別に見ても特に区分は先の昭和生涯学習センターのそれと大きな差はなかった。しかしこのうち、生涯学習受講のパターンが一般的に（開講受講生募集）→（講義）→→（講義終了）でくりかえされる進め方に対して、(1) 14年度は一部受講区分を通年受講の形で枠を設け、通年受講を義務付けて実施されたことは新しい企画であった。もちろんテーマは数種類の内容が盛り込まれたが、受講者側からすれば深まった内容を一年間に亘っていくつも受講できたと言うメリットがあったと推測される。(2) 他のひとつは、瑞穂生涯学習センターは自主講座の数が多く、文字通り自主的な活動が盛んであることが窺われた<sup>(4)</sup>。

#### 2-3) 名古屋【中村生涯学習センター】企画立案テーマの概観

名古屋市中村区は名古屋市の西部地域に位置し、名古屋駅周辺の繁華街を含む地域である。しかしこの区域のさらに西側地域は、庄内川・新川を経て愛知県水郷地帯に連なる地域でもある。歴史的にみても古くから名古屋地区の主要地であった。センターで開講されている主要講座はやはりこれまでのふたつのセンター企画に見る区分けとほぼ同じ感があるが、中でも地域の歴史に立った地域探索、中村のまち探訪、まつりと山車、歴史もの、歴史文学鑑賞など、歴史色が濃い傾向が窺われた<sup>(5)</sup>。

#### 2-4) 名古屋【北生涯学習センター】企画立案テーマの概観

名古屋市北区は名古屋北部の市街地を擁し、庄内川・矢田川・旧練兵場跡地の広大な公園を位置させて全体的に自然が多い地域である。区内東部は、巨大なスポーツ施設に隣接した繁華街を持つが、最近はかつて地域が地域振興に誘

致した工場群の移設跡に住宅公団の住まいがやたらに建設されて人口集中傾向の土地柄に変貌した。このような背景があるが、地域生涯学習にむけた主催講座のテーマは、他のセンターと類似内容が見受けられるに過ぎない。「子育て」「料理」「家庭看護・健康法」「生活文化一般」に関する企画があり、地域の特長を生かした地域歴史ものや自然探索や自然理解の計画は多く見当たらない。自然河川が都市河川に連なって自然の姿を変えて行く特長を持った「黒川」の存在や名古屋地域に代表される河川群の学習環境を掘り起こす可能性が感じられるセンター活動への見直しが望まれる<sup>(6)</sup>。この中であって、かって区内を歩いていた旧街道の探索が企画されていたが、掘起かせば社寺仏閣にまつわる歴史内容とか、名古屋城にまつわる御用水ルートの歴史等をテーマに取り上げることができる地域要素が多々見つけられるようである。

#### 2-5) 生涯学習テーマに於ける環境・環境教育の位置

これまで名古屋市を中心にした生涯学習の実施主要テーマについて分野ごとの区分を眺めた。子育て、こどもの健康、高齢者の健康、福祉と介護、生活文化の向上、趣味と娯楽の拡充、障害者との共生、生活必需品になりつつあるパソコンへの誘いなど、生活の守備や対象テーマの範囲は多岐にわたることが窺われた。ここでより良い生活、豊かな毎日を想定すると我々はさらにこの上に、生活の基盤である自然への理解を深めなければ成らないことに気づくであろう。確かに概観した生涯学習テーマにも「自然の環境関連テーマ」は幾つか挙げられている。身近な自然界を探索すること、自然に触れて憩うこと、無意識でいる環境因子に気づくこと、自然の姿を数値で捉えて考えることなどが総合化されて価値が発揮される。人間生存の根幹に関わるこれらの認識はより深められなければならないと思われる<sup>(8)(9)</sup>。

ためしに概観した全センター開講項目のうち、「環境や自然」に類するテーマの開講数を分けへだてなく数え上げ、すべての開講数に比較し

て調べてみた。結果は、調査した地区について全開講数=373科目のうち、環境関連講座=17科目であった。この割合は、4.5%のレベルに落ちついた。環境関連問題は、排気ガスからごみ問題、自然観察から水質調査、酸性雨から砂漠化、環境教育から自然理解へと広がっている。

身近な自然界に対する気遣いが出発点になることは言をまたないであろう。生涯学習を通して、機会あるごとにそして多くの人々に、自然環境への鋭い目を育てたいものである<sup>(10)</sup>。

### 3. 環境問題講義をすすめるための十ヶ条

長い間、自然科学系の講義を開講し、学生教育に関わってきた視点から環境問題のみならず、環境問題や環境教育に関連する多数の講義を理解を深めながら進めるに当たって、以下に経験から(十ヶ条)を精選した。

- 1) 言葉のみによる一方的な説明に終始しない。  
自然現象の理解を深めるには、「言葉」のみの説明では不可能である。
- 2) 適切な説明サンプルや事例を工夫して導入する。  
目の前に展開する具体物・サンプルによって理解は深まる。
- 3) 実物試料や実物写真を用いた内容説明を考える。  
実物を用いた説明は、事柄を半分説明したことと同等である。
- 4) 資料に提示物の説明をつける(文字による資料説明)。  
念には念を入れ、説明のエッセンスを文字で資料に残す。
- 5) 受講者が参加できるレベルで、講演に関連した実習を工夫する。  
聞き終わりは、理解の終末でしかない。  
再度新たに実習を課する。
- 6) 講義に即した演習を導入し、受講者の発表までを計画・実施する。  
実習に次ぐ演習を課す、意識は常に主題に留まるものである。
- 7) 目で見て理解できる手法や説明を多く用いる。

ものの理解は五感をフル活用させることでより効果を発揮する。

- 8) 講義内容を教えるより講師自らが学ぶ講義への姿勢を持つ。  
いつも講師が新鮮な状態で教えることは、自身が学ぶことであると同じである。
- 9) 地域・現場視察を事前に行い、話題に盛り込む。  
自然に関わる課題は、身近なものに触れて進めると動機付けが増加する。
- 10) 地域受講者の満足度が講師の喜びに重なる内容で講演する。  
受講者の満足度がわかる講師でありたい。

講義が終わったらすべてが終わる発想がある。講師の一方的な判断であろう。受講者の理解を深める手だてを考え、工夫して自然の姿を語らしめなければならない。自然の姿はグラフに、モデルに、数式に、その姿を現してくるものである。精選した関連事項の演習を手がけることによって、課題はいと簡単に強烈に掌中に入るものようである。

#### 4. 自然環境問題講演の実績

過去数年間にわたって生涯教育に関する内容にも触れながら環境問題関係について行った講演をまとめた。

- 01) 名古屋市教育委員会「中村青年の家」  
環境問題主催講座研修講演  
地球にやさしい野外術  
「環境教育入門①～⑤」  
名古屋中村青年の家 1995-01-25
- 02) 愛知県海部郡佐織町  
町民大学講演  
「地球にやさしい日々の暮らし」  
海部郡佐織町公民館 1995-02-19
- 04) 三重県志摩保健所  
環境カレッジ'95 講演 in 志摩講演  
「地球にやさしい日々の暮らし」  
三重県志摩郡志摩保健所 1995-10-27
- 03) 名古屋港生涯学習センター  
特別講演会  
「自然に親しむ生活」  
名古屋港生涯学習センター 1997-01-28
- 05) 三重県環境安全部環境安全政策課  
エコリーダー養成講座講演  
「地球環境問題について」  
三重県菰野町ゆずりは荘 1997-10-12
- 06) 名古屋昭和生涯学習センター  
「身近な川を考える」  
名古屋昭和生涯学習センター 1998-10-21
- 07) 名古屋昭和生涯学習センター  
自然観察会  
「名古屋市北区黒川べりを歩く」  
名古屋市北区黒川河畔 1999-05-20
- 08) 愛知県海部郡海部・津島教育委員会  
環境シンポジウム講演  
「川・ひと・くらし」  
愛知県海部郡蟹江町公民館 2001-02-18
- 09) 三重県伊勢市伊勢市役所  
生活排水対策活動推進協議会学習会講演  
「身近な河川と地域」  
三重県伊勢市伊勢市役所 2001-02-23
- 10) 愛知県海部郡海部・津島教育委員会  
海部・津島合同エコキッズ  
学習会講演（海部郡蟹江町）  
海部郡蟹江町研修センター 2001-08-07
- 11) 三重県伊勢市伊勢市役所  
生活排水対策活動推進協議会学習会講演  
「導水がもたらしたもの」  
三重県伊勢市健康保険センター 2002-02-15
- 12) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
婦人学級講演  
「地域環境問題（1）」  
「瑞穂の環境：黒川から考える」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-06-05
- 13) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
婦人学級講演  
「地域環境問題（2）」  
「瑞穂の環境：山崎川から考える」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-06-12
- 14) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
高年大学講演（1）

- 「水のまちを考える」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-06-20
- 15) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
高年大学講演 (2)  
「サクラのまちを考える」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-06-27
- 16) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
高年大学講演 (3)  
「演習：私が推薦する瑞穂環境」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-07-04
- 17) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
高年大学講演 (4)  
「まちづくりと諸要素」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-07-11
- 18) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
高年大学講演 (5)  
「まちづくりの課題」  
名古屋瑞穂生涯学習センター 2002-07-18
- 19) 愛知県知多郡東浦町役場  
ISO 資格認証取得環境問題講演  
「最近の地球環境問題と地域のあり方」  
愛知県知多郡東浦町役場 2002-08-07
- 20) 愛知県海部郡海部・津島教育委員会  
合同エコキッズ  
学習会講演 (海部郡美和町)  
海部郡美和町公民館 2002-08-09
- 21) 三重県伊勢市伊勢市役所  
生活排水対策活動推進協議会学習会講演  
「伊勢・勢田川の現状：ヘドロと濁度」  
三重県伊勢市伊勢市役所 2003-02-19
- 22) 名古屋中村生涯学習センター  
藤前干潟観察会「自然にズームイン」  
名古屋中村生涯学習センター 2003-05-31
- 23) 名古屋中村生涯学習センター  
藤前干潟観察学習会講演  
「藤前干潟と生物の食物連鎖」  
名古屋中村生涯学習センター 2003-06-14
- 24) 南山大学経済人クラブ  
月例講演「自然界と都市生活を考える」  
名古屋市中区栄アパホテル 2003-12-18
- 25) 愛知県海部郡大治町  
おおはるエコキッズ調査隊学習会講演

「身近な自然を観察してみよう考えてみよう」

愛知県海部郡大治町公民館 2004-01-10

## 5. 地域生涯学習のいくつかの成功例

### 5-1) エコキッズ：Eco-Kids 調査隊の活動

身近な現在ある地域環境を考えることは、地域の将来に関わる重要な問題の一つになっている。これからすると地域を背負って立つ地域の小中学生が、早い時期から地域の一員として地域のあり方に関わりを感じたり、自分たちが住んでいる町や村の動きに触れて成長することは、町づくりをはじめ地域創生の大きな要になることは疑いのない事実である。この考え方は、地域に生きる小中学生の周りを取り囲み、実際にいろいろな場面に置いて地域活動を行う役割を持っている大人達にも町・村づくりの新しい刺激を

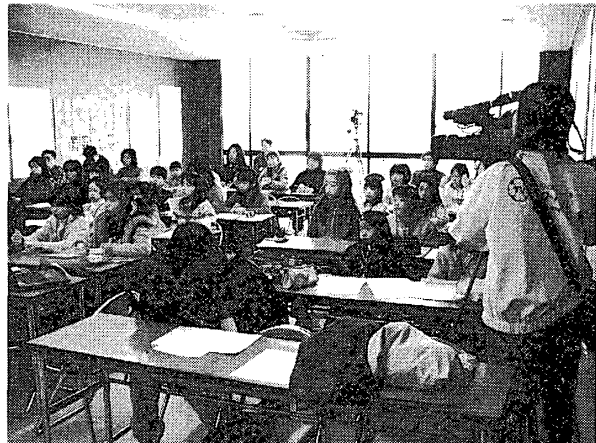


図-1：おおはるエコキッズ研修会



図-2：エコキッズ学習会の実験観察

かき立てる役割を与えるにちがいない。

地球環境問題が将来に向けて重要な位置にあり、かつ地球の将来に危機感を感じる事が如実にとらえられてから、市町村における「エコキッズ (Eco-Kids)」の存在が各地で盛んに認められるようになった。愛知県海部郡・津島市の市町村は、地域の公民館を中心にして、社会教育の一環としてエコキッズ調査隊を誕生させ、これまで地域水郷にある主要河川水の水質調査を継続してきた。彼等の調査結果の累積について当初から現在までを眺めるとき、着実に自然に対する働きかけが進歩している事実を認めることができる。当初は指導者活動の手探り状態から、調査結果にも未熟な面が隠せなかったが、最近に見る長期的継続努力の結果は、しっかりと自然の姿が把握できるレベルまでに高まってきている。調査結果に加えて(1)自然を見つめる気概の高揚や学習会における理解度と興味の高まり、集中力を感じとることができるまでになっている。さらにこの地域のエコキッズ活動は、上級生(高学年)が下級生(中学年)を指導する体制も取られているために、(2)自ら学んだ知識やテクニック等を順次、つぎに続く学年に自主的に教え伝えて行くことができるまでに成長している。最近、海部郡おおはるエコキッズ調査隊の学習研修会に参加できる機会を得たが、年間活動を締めくくるまとめにおいて、大治町町長に向けた「環境を守る五ヶ条」を述べて、町づくりに対する小さな責任感を進言するに至った。地域(大治町)行政もこれに答えて地域環境整備をさらに推進させることを約束し、エコキッズ活動に期待する場面も出現した(図-1)(図-2)。

### 5-2) 名古屋市瑞穂区サクラの会にみる活動

2002年度：名古屋瑞穂生涯学習センターの主催講座に、年間を通していくつかのテーマをより深く学習する高年大学が企画・運営された。

この計画のひとつに地域環境を見直し、より良い地域、潤いのある地域、豊かな生活を構築する内容の講義が盛り込まれていた。この地域は、名古屋市の中央南部に位置し、閑静な住宅やいくつかの文教施設、名古屋地区唯一の陸上

競技施設等を要した地域である。現在、名古屋市南東部が地域開発されつつある影響も含んで、新旧住民の共存、非戦災地区の残留、マンション群の林立等、新しさも古さも漂わせた一地域である。区内中央には「桜の名所：山崎川」が流下して季節によって華やいだ雰囲気を持った地域でもある<sup>(10)</sup>。

筆者はこの瑞穂の環境を見直す講演を5回にわたり担当したが、名古屋市内の他地区にみる環境と比較しながら、瑞穂の地には既存の由緒ある「桜」を中心に据えた環境整備と開発、河川水浄化、水質保持、広大な陸上競技場と関連した附属施設のみどりの環境を生活に取り入れ、みどり豊かな地域づくりと桜の存在を強調した。「いつも花にあふれる瑞穂」をテーマに掲げて講義を終了した。講義中には、受講生自らが望む自分達の町の展望をシュミレーションする演習も加え、緊張と興味と満足感の内に終講を迎



図-3：冬桜を植樹するサクラの会々員



図-4：サクラの会メンバーと植樹関係者

えた。反響は大きく余韻を残して、その後、受講者有志の提唱に和して「サクラの会」自主講座グループが発足した<sup>(11)(12)</sup>。

ひとつの生涯学習講義において余韻をかもし、さらにここから生涯学習の実践を進めようとするグループの各氏は、自主的発案によって山崎川の「さくら並木」を捉え直し、いつも桜に触れることができる環境を目指して「冬桜の植樹」を実行に移した(図-3)。この快挙は地域の生涯学習を実際に自らの課題として捉えた成功例である。瑞穂生涯学習センターならびに瑞穂区土木局の協力を得、2003年12月18日のうららかな冬の一日に見事念願の「冬桜」は、瑞穂の山崎川河畔に新しく根を張った。

つぎの各氏は、昨今の生涯学習実践の模範的存在である「サクラの会」を立ち上げたメンバーである(図-4)。講義内容に賛同できた冬桜の植樹を行って地域の緑化に貢献した。この快挙により過日、瑞穂区土木課から表彰を受けた。今後も理想的な地域理解の推進と地域づくり計画を継続中である。メンバー会長の了解を経て以下にお名前(敬称略)を付記した。

\*\*\* サクラの会 \*\*\*

安井 富子	今井 直次	木村 春雄
成田 孝	杉山 隆子	森 和子
大嶽 正一	牧原 道夫	谷口 功
富江 章	北原 幸吉	川島昇一郎
村上 鯨子	服部 敏子	藤田 芳孝
村上 節子	余吾 房子	

SUMMARY

For the present days and our lives, it is important for us to require, as one of themes in social education, the life to be well comfortably or become prosperous concerning improvement for our town community senses, in future.

Under present social education, many lectures, lessons or practical exercises of those in town communities have mainly trends, such as enjoyment good health, method of bringing up child,

cooking drill, training to volunteer, personal computer instruction, visiting historic place or lecture of area history and so on, and in larger sense, there is a few theme of natural environment studies.

Because of the thinking out the plan in which deep comprehension of the nature and its preservation lead to the prolonged survive of all lives in the earth, it is altogether fitting and proper that we should do take advance of the promotion in natural field education or exercise as much as others.

Last of all, the author should like to show the three more valuable teaching techniques in nature study as follows,

1. Use the real things in nature or contact with actual object. Learn modestly in natural environment in itself, we cannot tell for certain unless we see it with our own eyes.
2. In lecture or lesson, assign an exercise by all means and make presentation between fellow members.
3. Make detailed preliminary observation or examination to the actual area before the lecture opening or on the stages of preparation.

文 献

- (1) 名古屋教育センター  
生涯教育研究報告書(1994)
- (2) 大学教育実践研究関連センター協議会  
新しい学力観に基づく学習環境・情報教育の研究(1994)
- (3) 名古屋昭和生涯学習センター  
主要講座案内(12・13・14年度)  
(2000-2002)
- (4) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
主要講座案内(12・13・14年度)  
(2000-2002)
- (5) 名古屋中村生涯学習センター  
主要講座案内(12・13・14年度)

- (2000-2002)
- (6) 名古屋北生涯学習センター  
主要講座案内 (12・13・14年度)  
(2000-2002)
- (7) 名古屋市生涯学習推進センター  
講座のごあんない (2003)
- (8) 松本和芳・加藤文雄ら  
平成12年度 学ぶ楽しさが実感できる総合的な学習 -特色あるカリキュラムづくりを目指して-  
名古屋市北区大杉小学校 (2000)
- (9) 富野孝生・橋本雅弘  
名古屋昭和生涯学習センター現地学習  
新緑の黒川べりを歩く (北区上飯田から城北橋へ) (1999)
- (10) 名古屋瑞穂生涯学習センター  
名古屋環境 Day 瑞穂山崎川探索 (2003)
- (11) 中日新聞  
冬も花見せて・四季桜を植樹  
2003-12-18 掲載 (2003)
- (12) 朝日新聞  
名所山崎川に冬桜仲間入り・市民講座受講生ら植樹 2003-12-18 掲載 (2003)